

2022年度第3四半期 決算説明資料

2023年2月9日
株式会社 神戸製鋼所
証券コード 5406

KOBELCO

1. 業績総括
2. 2022年度 第3四半期業績
3. 2022年度 業績見通し
4. 参考情報

1. 業績総括

2022年度第3四半期決算 (対前年同期)

- 主要需要分野である**自動車の生産台数が海外を中心に前年同期比で減少**したことや、お客様での在庫調整の影響などにより、**素材系事業の販売数量が減少**。建設機械においても、中国での総需減少の影響に加え、エンジン認証問題による供給制約から**販売台数が減少**。
- **鉄鋼メタルスプレッド**は、販売価格の改善が着実に進展したことから**前年同期比で大幅に改善**。一方、アルミ板・素形材・建設機械では、エネルギー価格の高騰や諸資材価格の上昇に対する**販売価格への転嫁の遅れ**から、**前年同期比でマージンが悪化**。
- **経常利益**は、鉄鋼メタルスプレッドが大幅に改善したものの、販売数量の減少、アルミ板・素形材・建設機械でのマージンの悪化、固定費を中心としたコストの増加、在庫評価益の縮小などにより、**前年同期比39億円減益の748億円**。

2022年度通期業績見通し (対前回見通し)

- 自動車生産の更なる回復遅れや、IT・半導体分野での需要減に伴う**素材系事業の販売数量の減少**を見込む一方、需要が堅調な**機械**においては**受注高の更なる増加**を見込み、過去最高を大幅に更新する見通し。
- **鉄鋼メタルスプレッド**は、販売価格改善の進展に加え、主原料価格の下落や円高の影響等により、**前回見通しから改善**する一方、アルミ板・素形材では、エネルギーコストの上昇等によるマージンの悪化が更に拡大する見通し。
- 通期業績見通しについては、素材系事業の販売数量の減少があるものの、**鉄鋼メタルスプレッドの改善**、電力での**燃料費調整の時期ずれ影響の縮小**（円高に伴う石炭購入価格の下落）、建設機械における**エンジン認証問題に関する補償金収入**などにより、**経常利益は920億円**（前回:700億円）と**前回比増益**を見込む。

(単位：億円)

	2021年度実績		2022年度	2022年度見通し(今回)		前年度比増減		前回比増減
	3Q累計	通期	見通し(前回)	3Q累計実績	通期	3Q累計	通期	通期
	①	②	③	④	⑤	④－①	⑤－②	⑤－③
売上高	14,848	20,825	25,300	17,846	24,900	+2,998	+4,075	△400
営業損益	765	876	550	538	670	△227	△206	+120
鉄鋼アルミ	313	375	350	410	390	+96	+15	+40
素形材	71	51	10	△1	5	△72	△46	△5
溶接	27	27	25	15	25	△11	△2	－
機械	85	125	150	83	150	△1	+25	－
エンジニアリング	90	77	15	26	30	△63	△47	+15
建設機械	128	120	40	107	90	△20	△30	+50
電力	77	132	135	64	180	△12	+48	+45
その他	24	70	50	32	60	+8	△10	+10
調整額	△29	△49	△75	8	△10	+38	+39	+65
経常損益	787	932	700	748	920	△39	△12	+220
在庫評価影響を除く	337	422	415	443	655	+105	+233	+240
特別損益	－	※1 △92	△26	※2 △77	△77	△77	+15	△51
親会社株主に帰属する 当期純損益	540	600	450	475	620	△65	+20	+170

※1 銅管事業の株式譲渡損

※2 建設機械 中国生産拠点の集約に伴う退職者に対する補償金
神鋼建機（中国）の減損損失、他

セグメント	概況（前回見通しからの変化）
素材系事業 （鉄鋼・アルミ板 素形材 溶接）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 半導体不足の継続、中国でのコロナ感染症の再拡大等による海外を中心とした自動車生産の減少やお客様での在庫調整等により、鋼材販売数量は前回見通しから減少する見通し。 ■ アルミ板、素形材についても、自動車生産の減少に加え、IT・半導体向けの需要減などから、販売数量は前回見通しから減少する見通し。 ■ 鉄鋼メタルスプレッドは、販売価格改善の進展に加え、主原料価格の下落や円高の影響等により、前回見通しからの改善を見込む。 ■ アルミ板・素形材においては、LNG・電力価格が前回見通し時の想定よりも更に上昇する中、販売価格への転嫁の遅れが拡大する見通し。
機械 エンジニアリング	<ul style="list-style-type: none"> ■ エネルギー分野の需要は引き続き堅調に推移する中、機械の受注高は前回見通しから更に増加し、過去最高を記録した昨年度を大幅に上回る水準となる見通し。 ■ エンジニアリングにおけるMIDREX®プラントの引き合いは引き続き旺盛。
建設機械	<ul style="list-style-type: none"> ■ 油圧ショベルの販売台数は、東南アジアでの景気後退懸念などにより、前回見通しから更に減少する見通し。クローラクレーンの販売台数についても、部品供給不足に伴う生産・出荷の遅れなどにより、前回見通しから減少する見通し。 ■ エンジン認証問題に関する補償金収入を、前回見通しからの変化として織り込み。
電力	<ul style="list-style-type: none"> ■ 円高の進展により、神戸発電所3・4号機における燃料費調整の時期ずれによる損失が前回見通しから縮小する見通し。 ■ 神戸発電所4号機が、本年2月1日に営業運転を開始。

需要動向

➤ **自動車生産台数**：国内については、緩やかに生産が回復している一方、半導体不足の継続、コロナ感染症の再拡大等から、中国・北米など海外を中心に前回見通しから前提を下方修正。

* 影響を受けるユニット：鉄鋼、アルミ板、サスペンション、アルミ押出、銅板、鉄粉、溶接

《日系自動車メーカー生産台数（海外含む）の想定》

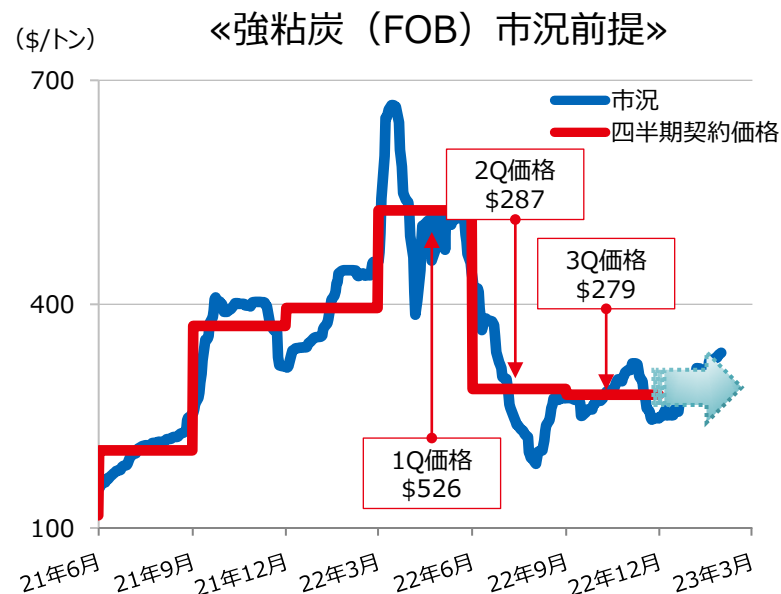
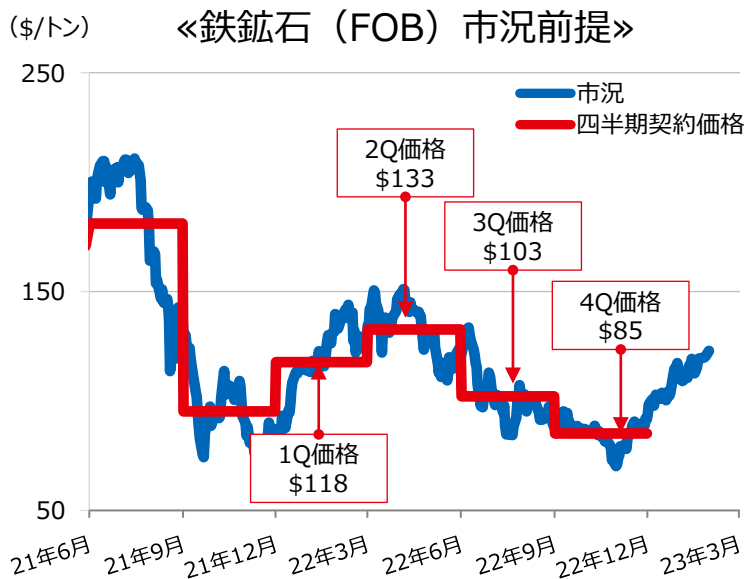
* 2019年度平均比

	2021年度 実績	2022年度前回					2022年度今回				
		1Q	2Q	3Q	4Q	年度	1Q	2Q	3Q	4Q	年度
増減率	△12%	△22%	△10%	△7%	△2%	△10%	△22%	△10%	△11%	△7%	△12%

原料市況

鉄鉱石：4Q価格は\$85で決着。

強粘炭：3Q価格は\$279、4Q価格は、3Q価格と同水準にて想定。



2. 2022年度 第3四半期業績

【売上高】 1兆7,846億円（前年同期比+2,998億円）

- 販売数量の減少があるものの、販売価格改善の進展、電力での一般炭市況の高騰に伴う販売電力単価の上昇などにより増収

【経常損益】 748億円（前年同期比△39億円）

- 鉄鋼メタルスプレッドが大幅に改善したものの、販売数量の減少、アルミ板・建設機械でのマージンの悪化、固定費を中心としたコストの増加、在庫評価益の縮小などにより減益

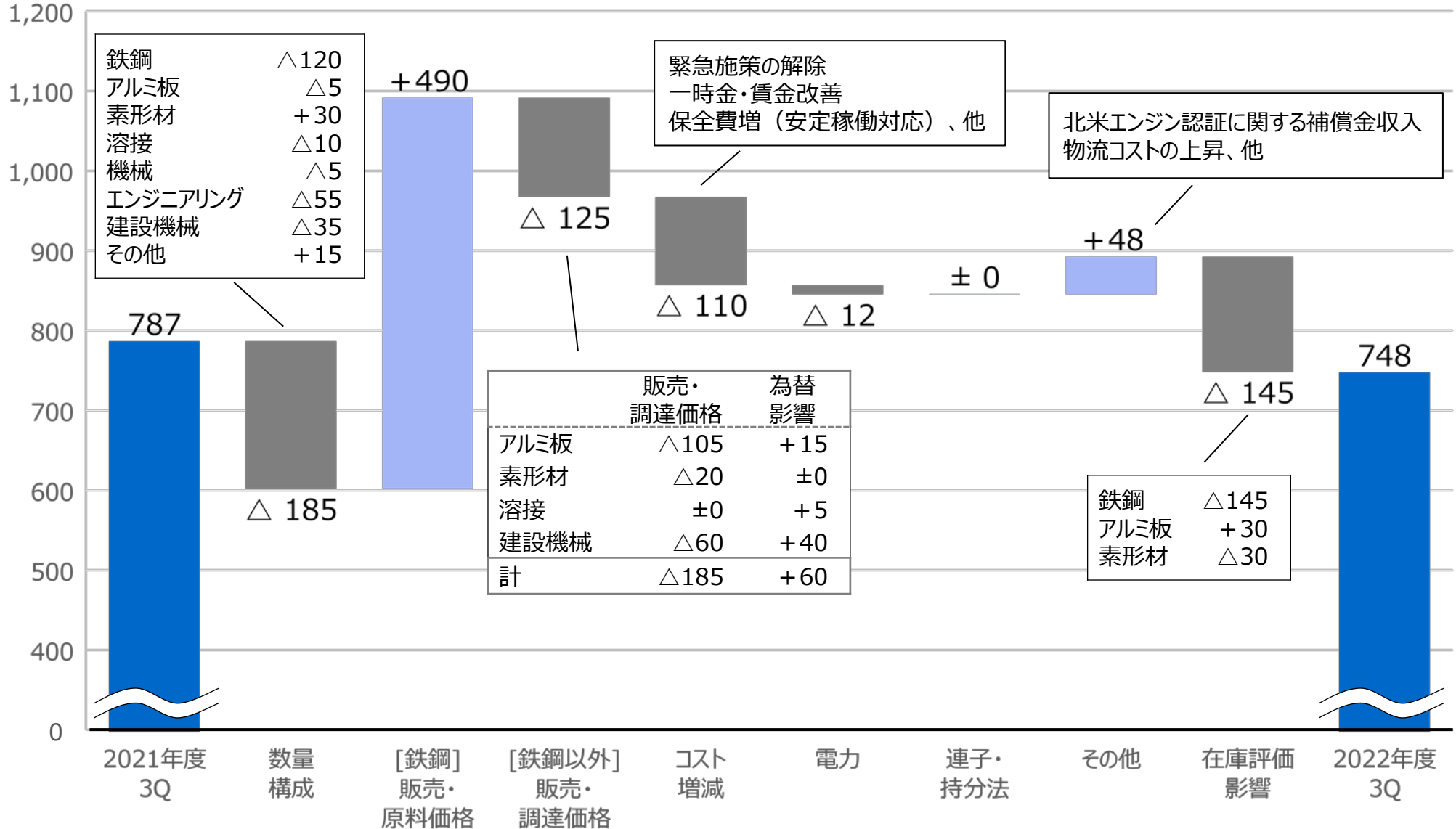
（単位：億円）

	2021年度 3Q累計 ①	2022年度 3Q累計 ②	増減 ②-①
売上高	14,848	17,846	+2,998
営業損益	765	538	△227
経常損益	787	748	△39
在庫評価影響を除く	337	443	+105
特別損益	—	※ △77	△77
親会社株主に帰属する四半期純損益	540	475	△65

※特別損益の内訳

減損損失	△42	神鋼建機（中国）、他
事業整理損	△34	建設機械・中国生産拠点の集約に伴う
特別損益	△77	退職者に対する補償金、等

(億円)



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

【売上高】

(単位：億円)

	2021年度 3Q累計 ①	2022年度 3Q累計 ②	増減 ②-①
鉄鋼アルミ	6,631	8,265	+1,634
素形材	2,345	2,037	△307
溶接	572	647	+75
機械	1,186	1,283	+96
エンジニアリング	898	985	+86
建設機械	2,834	2,804	△29
電力	585	2,131	+1,546
その他	181	168	△12
調整額	△388	△479	△90
合計	14,848	17,846	+2,998

【経常損益】

(単位：億円)

	2021年度 3Q累計 ③	2022年度 3Q累計 ④	増減 ④-③
鉄鋼アルミ	313	410	+96
素形材	71	△1	△72
溶接	27	15	△11
機械	85	83	△1
エンジニアリング	90	26	△63
建設機械	128	107	△20
電力	77	64	△12
その他	24	32	+8
調整額	△29	8	+38
合計	787	748	△39

(単位：億円)

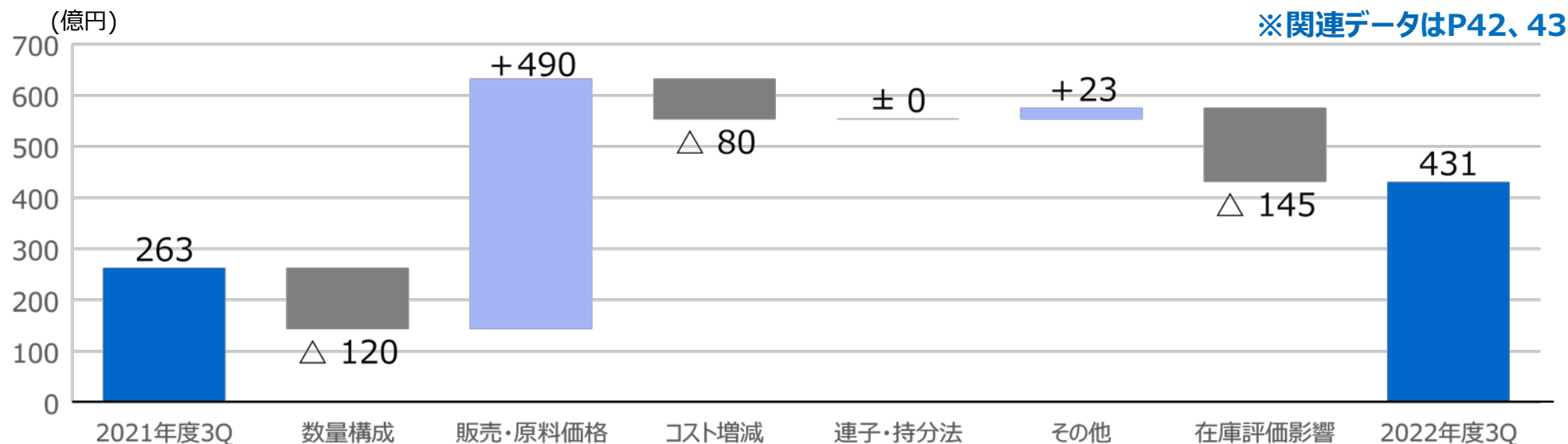
		2021年度 3Q累計 ①	2022年度 3Q累計 ②	増減 ②-①
鉄鋼	売上高	5,425	6,789	+1,363
	経常損益	263	431	+168
	在庫評価影響を除く	△106	206	+313
アルミ板	売上高	1,205	1,475	+270
	経常損益	50	△21	△71
	在庫評価影響を除く	25	△76	△101
合計	売上高	6,631	8,265	+1,634
	経常損益	313	410	+96
	在庫評価影響を除く	△81	130	+211

鉄鋼

【売上高】 2021年度3Q：5,425億円→2022年度3Q：6,789億円（前年同期比+1,363億円）

【経常損益】2021年度3Q： 263億円→2022年度3Q： 431億円（前年同期比+168億円）

- 粗鋼生産：468万t（前年同期比△31万t）
- 販売数量：375万t（前年同期比△25万t）
 - 自動車向け需要の減少に伴い減少
- 販売価格：139,100円/t（前年同期比+39,200円/t）
- 損益変動要因
 - 販売数量の減少
 - 販売価格改善の進展によるメタルスプレッドの改善
 - 労務費などの固定費の増加
 - 在庫評価益の縮小

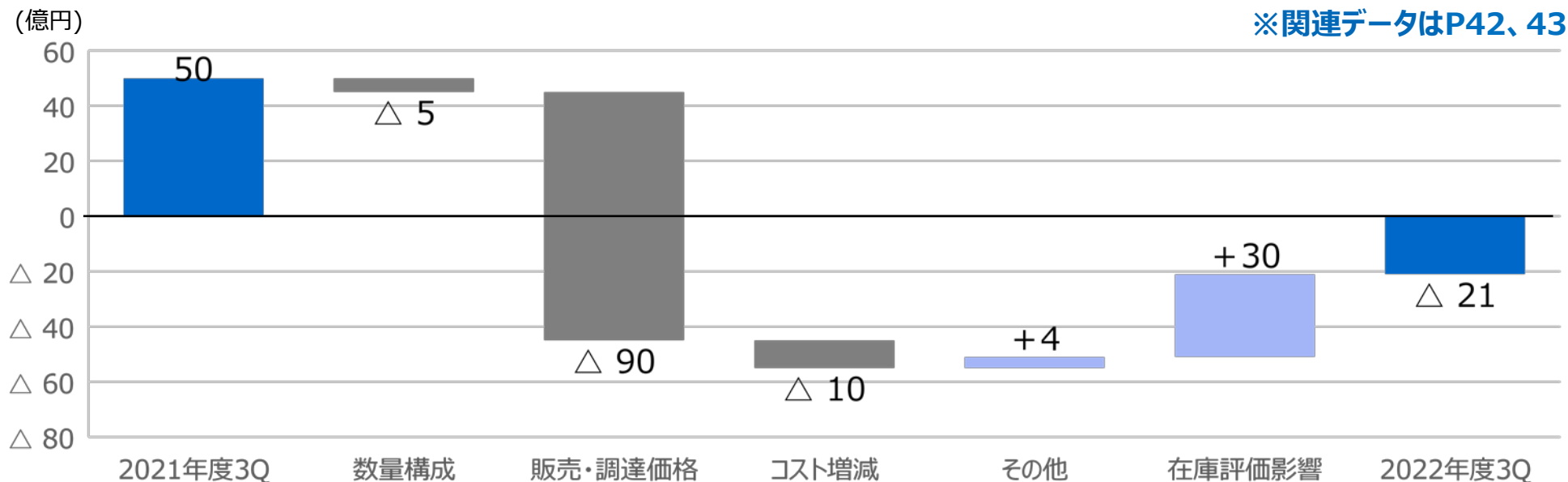


※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

【売上高】 2021年度3Q : 1,205億円 → 2022年度3Q : 1,475億円（前年同期比+270億円）

【経常損益】2021年度3Q : 50億円 → 2022年度3Q : △21億円（前年同期比△71億円）

- 販売数量 : 254千t（前年同期比△5千t）
 - 飲料用缶材向け : 需要の伸び悩みにより減少
 - 自動車向け : 自動車生産の減少に伴う需要減の一方、拡販により増加
 - IT・半導体向け : 半導体製造装置向け厚板を中心に増加
- 損益変動要因
 - 販売数量の減少
 - エネルギー価格の上昇に伴う調達コストアップ分の販売価格への転嫁の遅れ
 - アルミ地金価格の上昇に伴う在庫評価益の拡大



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

	2021年度 3Q累計 ①	2022年度 3Q累計 ②	(単位：億円) 増減 ②-①
売上高	2,345	2,037	△307
経常損益	71	△1	△72
在庫評価影響を除く	16	△26	△42

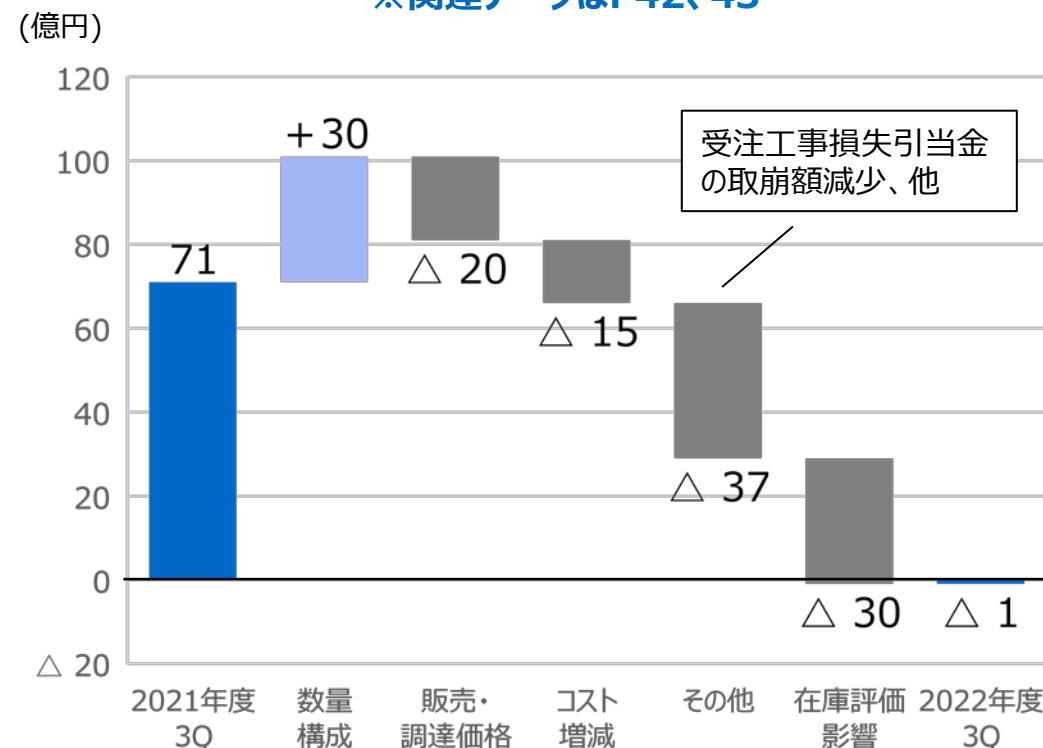
※関連データはP42、43

■ 販売数量

- 造船向け需要の取り込みにより、鋳鍛鋼で増加
- 一般産業向け需要の回復により、チタンで増加
- 自動車向け需要の減少により、アルミ押出、銅板、鉄粉で減少

■ 損益変動要因

- 鋳鍛鋼、チタンでの販売数量の増加
- エネルギー価格の上昇に伴う調達コストアップ分の販売価格への転嫁の遅れ
- 労務費などの固定費を中心としたコストの増加
- 在庫評価益の剥落（銅管事業譲渡の影響）



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

(単位：億円)

	2021年度 3Q累計 ①	2022年度 3Q累計 ②	増減 ②-①
売上高	572	647	+75
経常損益	27	15	△11

※関連データはP42

■ 販売数量

国内：前年同期並み

海外：東南アジアを中心とした需要の減少に伴い減少

■ 損益変動要因

- 販売数量の減少

(単位：億円)

	2021年度 3Q累計 ①	2022年度 3Q累計 ②	増減 ②-①
売上高	1,186	1,283	+96
経常損益	85	83	△1
受注高	1,467	1,760	+292

■ 受注高

- 石油化学・エネルギー向け等での堅調な需要を受け、産業機械・回転機ともに増加

■ 損益変動要因

- 案件構成差

(単位：億円)

	2021年度 3Q累計 ①	2022年度 3Q累計 ②	増減 ②-①
売上高	898	985	+86
経常損益	90	26	△63
受注高	1,362	1,052	△310

■ 受注高

- 還元鉄関連事業で複数の海外大型案件を受注した前年同期と比較すると減少

■ 損益変動要因

- 還元鉄関連事業を中心とした案件構成差

	2021年度 3Q累計 ①	2022年度 3Q累計 ②
売上高	2,834	2,804
経常損益	128	107

(単位：億円)

増減 ②-①
△29
△20

※関連データはP42

■販売台数

[油圧ショベル]

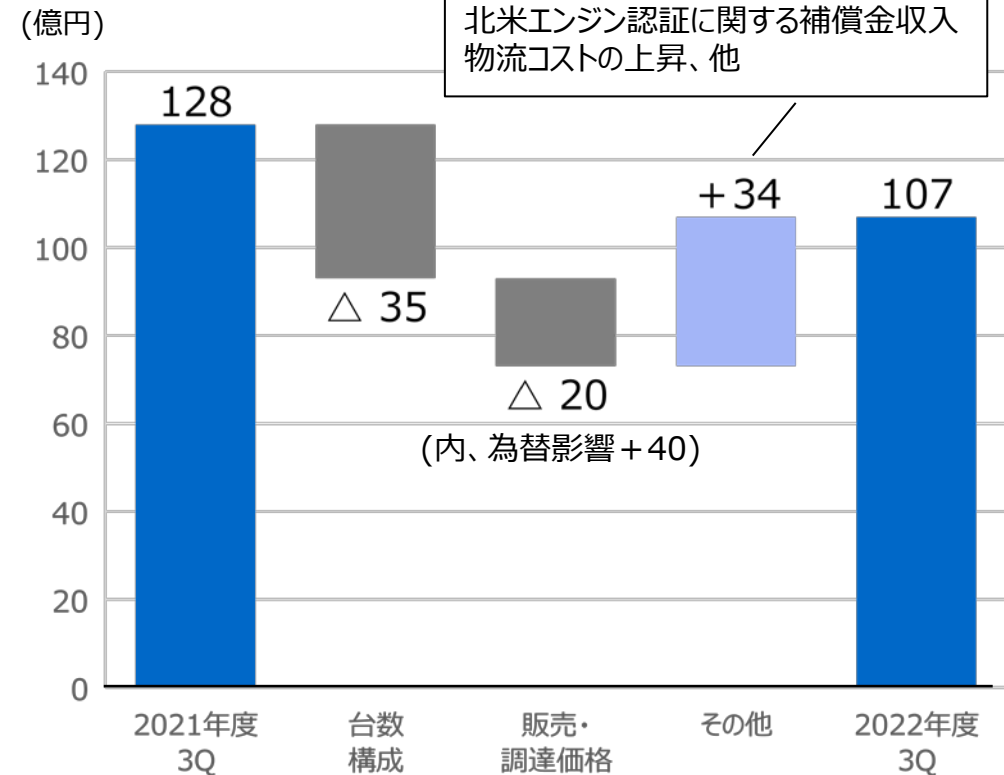
- インフラ投資の減退により需要が減少した中国での減少に加え、部品の調達不足の影響を受けた日本・欧州・北米でも減少

[クローラクレーン]

- 前年同期並み

■損益変動要因

- 油圧ショベルの販売台数の減少
- 鋼材などの調達コストアップ分の販売価格への転嫁の遅れ
- 対ドル、ユーロでの円安による輸出採算の改善
- 北米エンジン認証に関する補償金収入



(単位：億円)

	2021年度 3Q累計 ①	2022年度 3Q累計 ②	増減 ②-①
売上高	585	2,131	+1,546
経常損益	77	64	△12

■ 販売電力量

- 神戸発電所3号機（2022年2月に運転開始）の稼働に伴い増加

■ 販売単価

- 一般炭市況の高騰に伴い上昇

■ 損益変動要因

- 神戸発電所3号機の稼働
- 神戸発電所1～3号機における売電価格の指標となる全国貿易統計の石炭価格が当社の石炭購入価格に対して低い水準で推移した影響（一過性の要因）
- 神戸発電所3号機における燃料費調整（価格転嫁）の時期ずれ影響

3. 2022年度 業績見通し

【売上高】 前回：2兆5,300億円 → 今回：2兆4,900億円（前回比△400億円）

- 自動車向け需要の回復遅れ等による素材系事業を中心とした販売数量の減少
- 東南アジアの需要減を中心とした建設機械の販売台数の減少

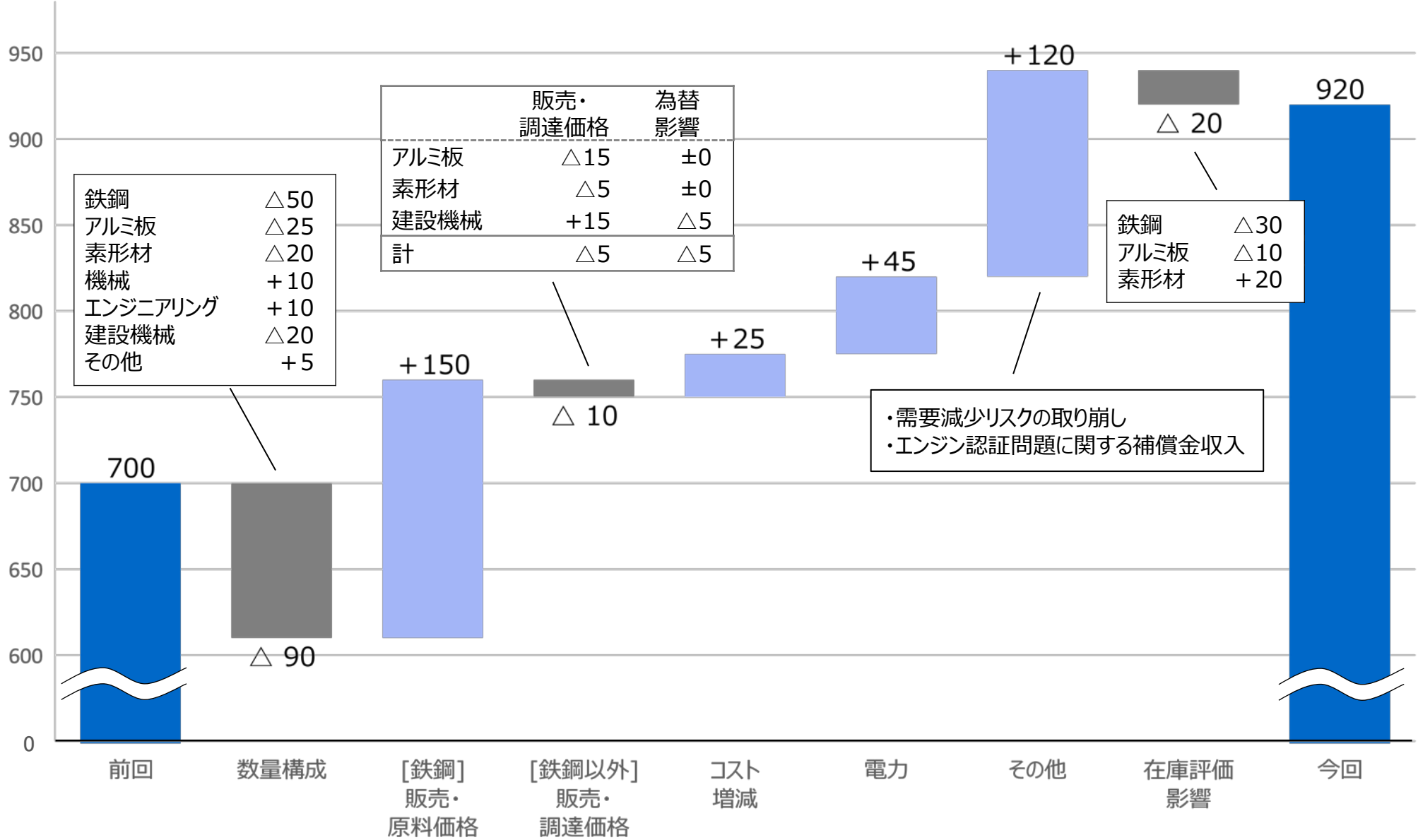
【経常損益】 前回：700億円 → 今回：920億円（前回比+220億円）

- 鉄鋼メタルスプレッドの改善
- 電力における燃料費調整の時期ずれ影響の縮小
- 建設機械におけるエンジン認証問題に関する補償金収入

（単位：億円）

	2021年度実績			2022年度見通し（前回）			2022年度見通し（今回）			増減 ②-①
	上期	下期	通期	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	
売上高	9,721	11,103	20,825	11,696	13,603	25,300	11,696	13,204	24,900	△400
営業損益	468	408	876	197	352	550	197	473	670	+120
経常損益	443	488	932	418	281	700	418	502	920	+220
在庫評価影響を除く	193	228	422	193	221	415	193	462	655	+240
特別損益	-	△92	△92	△26	-	△26	△26	△51	△77	△51
親会社株主に帰属する 当期純損益	345	255	600	280	169	450	280	340	620	+170

(億円)



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

【売上高】

(単位：億円)

	2021年度実績			2022年度見通し (前回)			2022年度見通し (今回)			増減 ②-①
	上期	下期	通期	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	
鉄鋼アルミ	4,273	4,875	9,149	5,365	5,784	11,150	5,365	5,585	10,950	△200
素形材	1,532	1,800	3,332	1,331	1,618	2,950	1,331	1,539	2,870	△80
溶接	380	388	769	421	458	880	421	449	870	△10
機械	797	871	1,668	862	1,077	1,940	862	1,038	1,900	△40
エンジニアリング	556	799	1,356	611	868	1,480	611	859	1,470	△10
建設機械	1,940	1,776	3,716	1,837	2,132	3,970	1,837	2,063	3,900	△70
電力	375	723	1,098	1,475	1,714	3,190	1,475	1,785	3,260	+70
その他	114	174	288	108	171	280	108	172	280	-
調整額	△248	△304	△553	△317	△222	△540	△317	△283	△600	△60
合計	9,721	11,103	20,825	11,696	13,603	25,300	11,696	13,204	24,900	△400

【経常損益】

(単位：億円)

	2021年度実績			2022年度見通し (前回)			2022年度見通し (今回)			増減 ②-①
	上期	下期	通期	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	
鉄鋼アルミ	148	226	375	223	126	350	223	167	390	+40
素形材	52	△1	51	14	△4	10	14	△9	5	△5
溶接	20	7	27	8	16	25	8	17	25	-
機械	42	83	125	52	97	150	52	98	150	-
エンジニアリング	43	33	77	9	5	15	9	21	30	+15
建設機械	84	36	120	100	△60	40	100	△10	90	+50
電力	57	75	132	△13	148	135	△13	193	180	+45
その他	11	59	70	21	28	50	21	39	60	+10
調整額	△17	△31	△49	1	△76	△75	1	△11	△10	+65
合計	443	488	932	418	281	700	418	502	920	+220

(単位：億円)

		2021年度実績			2022年度見通し（前回）			2022年度見通し（今回）			増減
		上期	下期	通期	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	②-①
鉄鋼	売上高	3,465	4,044	7,510	4,383	4,846	9,230	4,383	4,687	9,070	△160
	経常損益	124	222	346	210	149	360	210	240	450	+90
	在庫評価影響を除く	△95	12	△84	60	89	150	60	210	270	+120
アルミ板	売上高	807	830	1,638	981	938	1,920	981	899	1,880	△40
	経常損益	24	4	28	12	△22	△10	12	△72	△60	△50
	在庫評価影響を除く	24	△16	8	△42	△27	△70	△42	△68	△110	△40
合計	売上高	4,273	4,875	9,149	5,365	5,784	11,150	5,365	5,585	10,950	△200
	経常損益	148	226	375	223	126	350	223	167	390	+40
	在庫評価影響を除く	△71	△4	△76	18	61	80	18	142	160	+80

鉄鋼

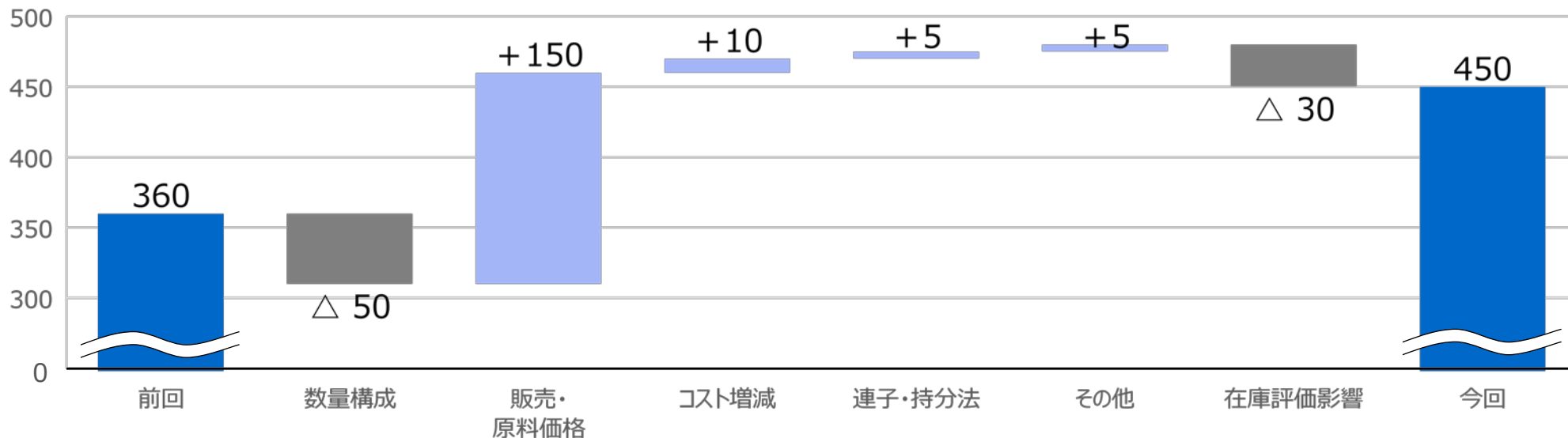
【売上高】 前回：9,230億円 → 今回：9,070億円（前回比△160億円）

【経常損益】 前回： 360億円 → 今回： 450億円（前回比+90億円）

- 粗鋼生産：620万t（前回比△10万t）
- 販売数量：500万t（前回比△10万t）
 - 海外を中心とした自動車向け需要の回復遅れや、お客様での在庫調整等により減少
- 損益変動要因
 - 販売数量の減少
 - 販売価格改善の進展や主原料価格の下落に伴うメタルスプレッドの改善
 - 円高影響等に伴う在庫評価益の縮小

(億円)

※関連データはP42、43



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

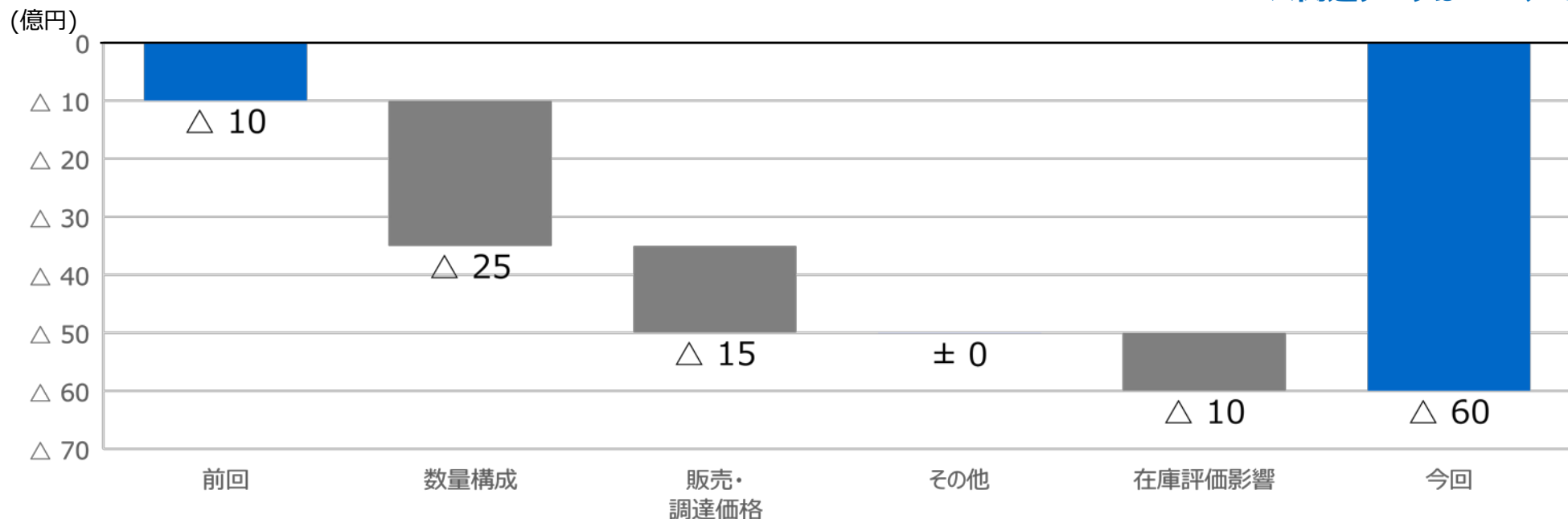
アルミ板

【売上高】 前回：1,920億円 → 今回：1,880億円（前回比△40億円）

【経常損益】 前回：△10億円 → 今回：△60億円（前回比△50億円）

- 販売数量：340千t（前回比△20千t）
 - 海外を中心とした自動車向け需要の回復遅れ、IT・半導体向けの需要減により減少
- 損益変動要因
 - 販売数量の減少
 - エネルギー価格上昇分の販売価格への転嫁の遅れ
 - アルミ地金価格の下落に伴う在庫評価益の縮小

※関連データはP42、43



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

(単位：億円)

	2021年度実績			2022年度見通し (前回)			2022年度見通し (今回)			増減 ②-①
	上期	下期	通期	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	
売上高	1,532	1,800	3,332	1,331	1,618	2,950	1,331	1,539	2,870	△80
経常損益	52	△1	51	14	△4	10	14	△9	5	△5
在庫評価影響を除く	22	△31	△9	△5	0	△5	△5	△25	△30	△25

※関連データはP42、43

前回：10億円 → 今回：5億円 (前回比△5億円)

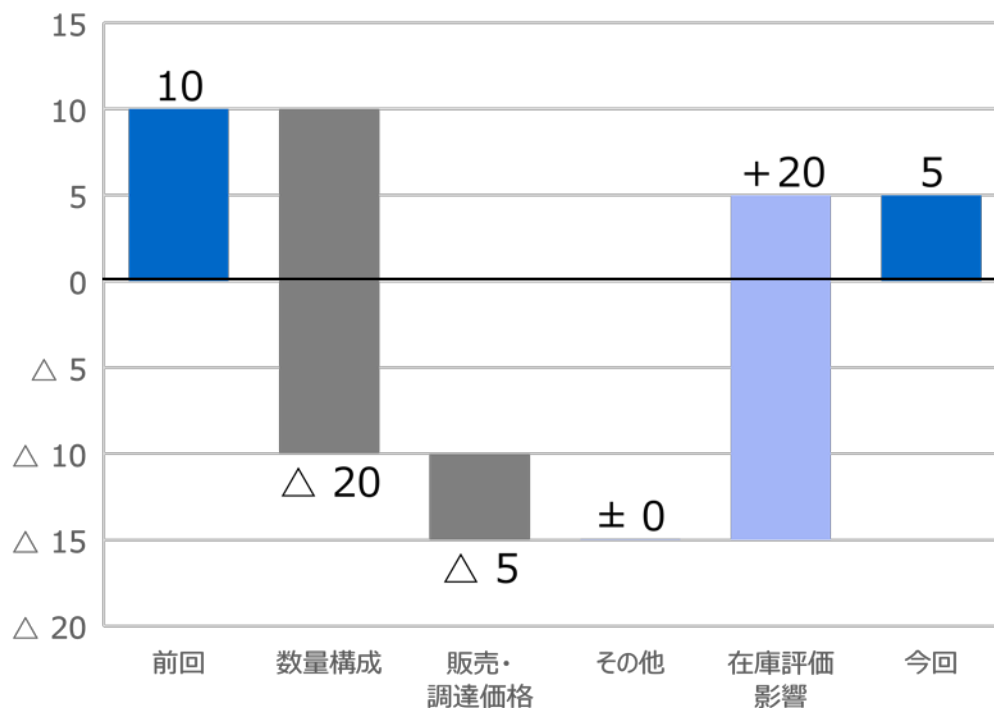
■ 販売数量

- 自動車向け需要の更なる回復遅れにより、サスペンション、アルミ押出、銅板、鉄粉で減少
- IT・半導体向け向け需要の減少により、銅板、アルミ鋳鍛で減少

■ 損益変動要因

- 販売数量の減少
- エネルギー価格上昇分の販売価格への転嫁の遅れ
- 銅地金市況の上昇に伴う在庫評価益の拡大

(億円)



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

(単位：億円)

	2021年度実績			2022年度見通し (前回)			2022年度見通し (今回)			増減
	上期	下期	通期	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	②-①
売上高	380	388	769	421	458	880	421	449	870	△10
経常損益	20	7	27	8	16	25	8	17	25	-

※関連データはP42

前回：25億円 → 今回：25億円 (前回比±0億円)

■ 販売数量

国内：前回並み

海外：東南アジアでの需要の回復遅れにより減少

■ 損益変動要因

- 前回並み

(単位：億円)

	2021年度実績			2022年度見通し (前回)			2022年度見通し (今回)			増減
	上期	下期	通期	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	②-①
売上高	797	871	1,668	862	1,077	1,940	862	1,038	1,900	△40
経常損益	42	83	125	52	97	150	52	98	150	-
受注高	895	1,170	2,066	1,114	1,250 程度	2,350 程度	1,114	1,350 程度	2,450 程度	+100 程度

前回：150億円 → 今回：150億円 (前回比±0億円)

■ 受注高 … 増加

- 回転機でエネルギー関連案件の追加受注などにより、過去最高の2,450億円程度となる見通し

■ 損益変動要因

- 前回並み

(単位：億円)

	2021年度実績			2022年度見通し (前回)			2022年度見通し (今回)			増減
	上期	下期	通期	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	②-①
売上高	556	799	1,356	611	868	1,480	611	859	1,470	△10
経常損益	43	33	77	9	5	15	9	21	30	+15
受注高	735	1,349	2,085	772	750 程度	1,500 程度	772	750 程度	1,500 程度	-

前回：15億円 → 今回：30億円 (前回比+15億円)

■ 受注高 … 前回並み

- 堅調なインフラ投資を背景に、水処理関連事業を中心に1,500億円程度の見通し

■ 損益変動要因

- 個別案件の進捗見直しに伴う改善

(単位：億円)

	2021年度実績			2022年度見通し (前回)			2022年度見通し (今回)			増減
	上期	下期	通期	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	②-①
売上高	1,940	1,776	3,716	1,837	2,132	3,970	1,837	2,063	3,900	△70
経常損益	84	36	120	100	△60	40	100	△10	90	+50

※関連データはP42

前回：40億円 → 今回：90億円 (前回比+50億円)

■ 販売台数

[油圧ショベル]

- 東南アジアでの景気後退懸念による需要減少・想定差や、部品供給不足などにより減少

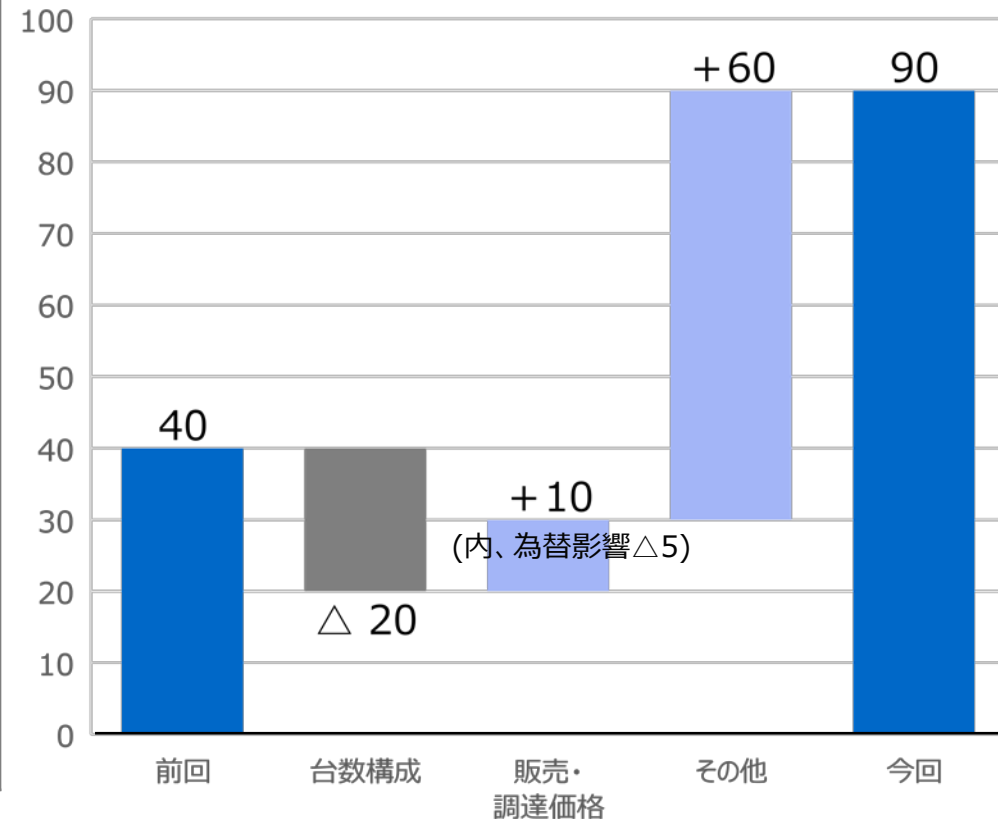
[クローラクレーン]

- 生産・出荷の遅れなどにより減少

■ 損益変動要因

- 販売台数の減少
- 調達コストの改善
- 中国での販売奨励金の減少
- エンジン認証問題に関する補償金収入

(億円)



(単位：億円)

	2021年度実績			2022年度見通し (前回)			2022年度見通し (今回)			増減
	上期	下期	通期	上期	下期	通期 ①	上期	下期	通期 ②	②-①
売上高	375	723	1,098	1,475	1,714	3,190	1,475	1,785	3,260	+ 70
経常損益	57	75	132	△13	148	135	△13	193	180	+ 45

前回：135億円→今回：180億円 (前回比+45億円)

■ 販売電力量 … 前回並み

■ 販売単価 … 上昇

- 売電価格の基準となる貿易統計価格の想定差、他

■ 損益変動要因

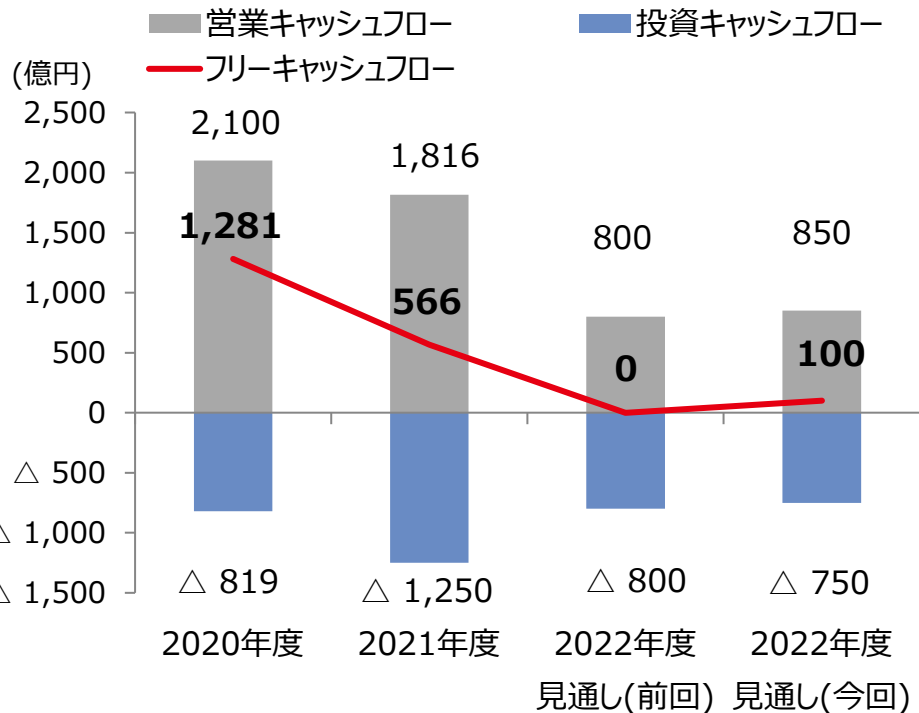
- 円高に伴う神戸発電所3・4号機における燃料費調整の時期ずれ影響の縮小

- 配当につきましては、継続的かつ安定的に実施していくことを基本としつつ、財政状態、業績の動向、先行きの資金需要などを総合的に考慮して決定することとしております。（配当性向の目安は、親会社株主に帰属する当期純利益（連結）の15%～25%としております）
- 当期の期末配当につきましては、本日の取締役会において、1株につき25円（年間40円）とする方針を決議いたしました。

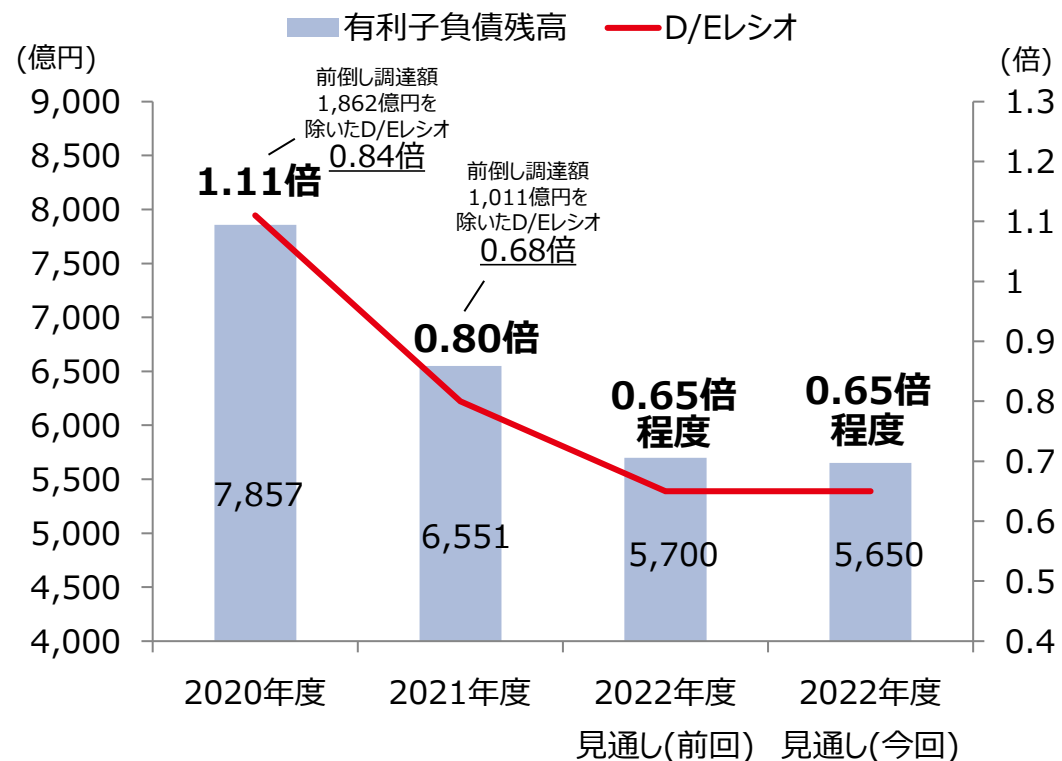
	2021年度			2022年度		
	中間	期末		中間	期末	
配当金額（円/株）	10	30	40	15	25	40
配当性向			25.0%			25.4%

- **フリーキャッシュフローは、販売数量の減少に伴う運転資本の悪化があるものの、業績の改善、投融資の厳選などにより、前回見通しに対して改善する見込み。**
- **引き続き、ROIC管理における重要KPIの設定などを通じた投下資本の進捗管理を強化し、棚卸在庫の適正化をはじめとする運転資本の改善に取り組むとともに、新規投資案件の厳選を継続し、財務規律の維持・向上を着実に推進する。**

《フリーキャッシュフロー》



《有利子負債残高・D/Eレシオ》



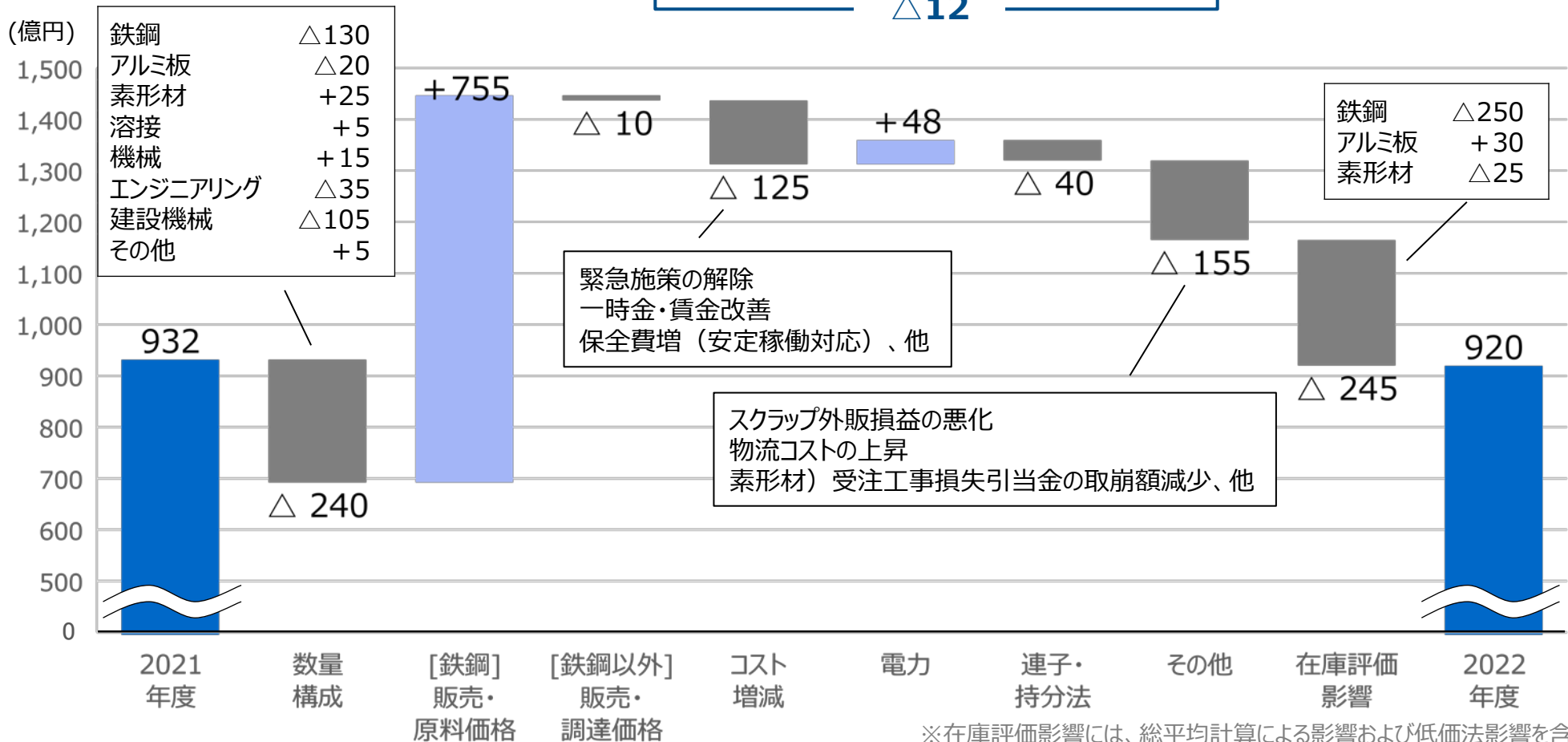
※フリーキャッシュフローおよびD/Eレシオに、プロジェクトファイナンスは含まない

4. 参考情報

【経常損益】

(単位：億円)

	2021年度 実績	2022年度見通し		
		上期	下期	通期
全社	932	418	502	920

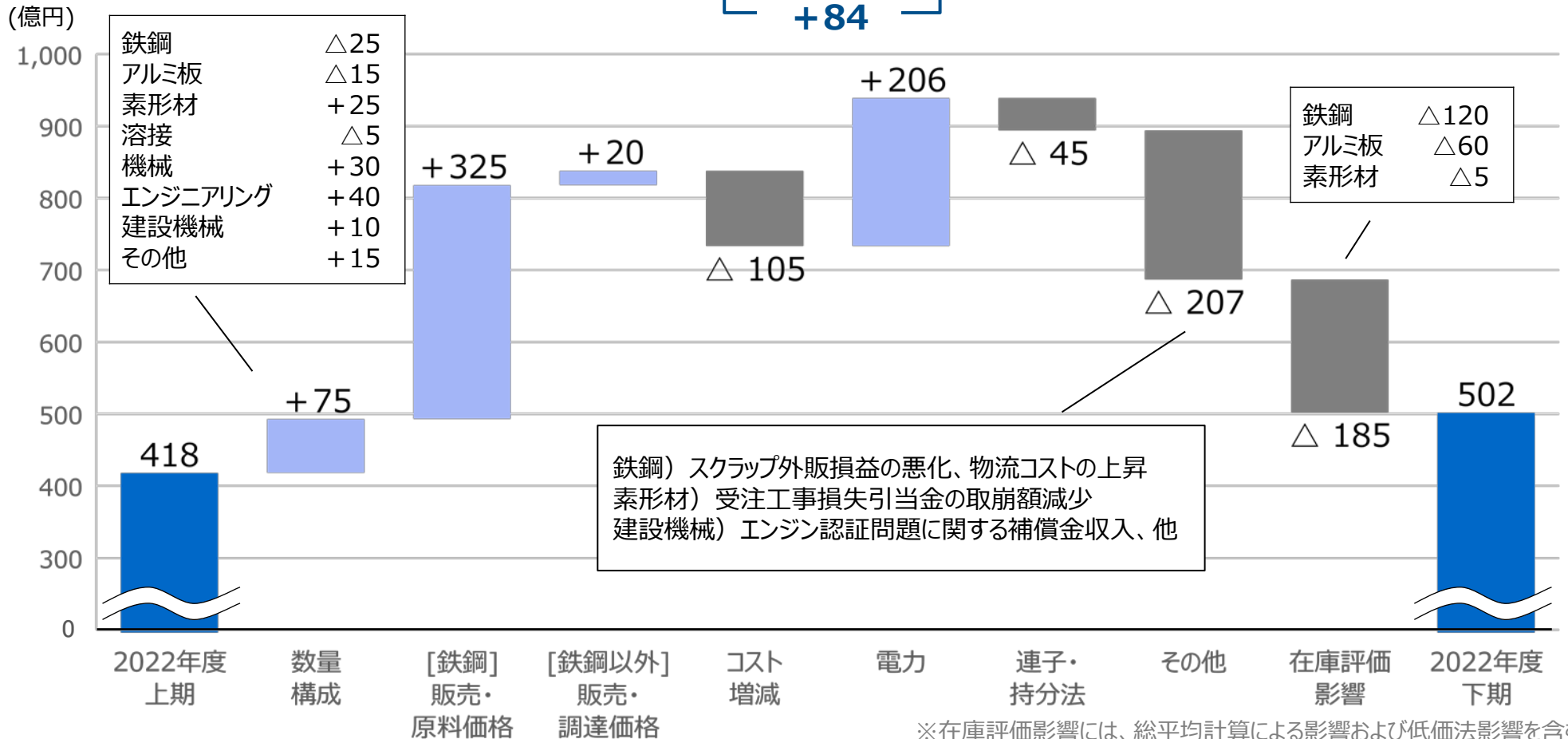


※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

【経常損益】

（単位：億円）

	2022年度見通し		
	上期	下期	通期
全社	418	502	920



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

【鉄鋼 経常損益】

(単位：億円)

	2022年度見通し		
	上期	下期	通期
鉄鋼	210	240	450

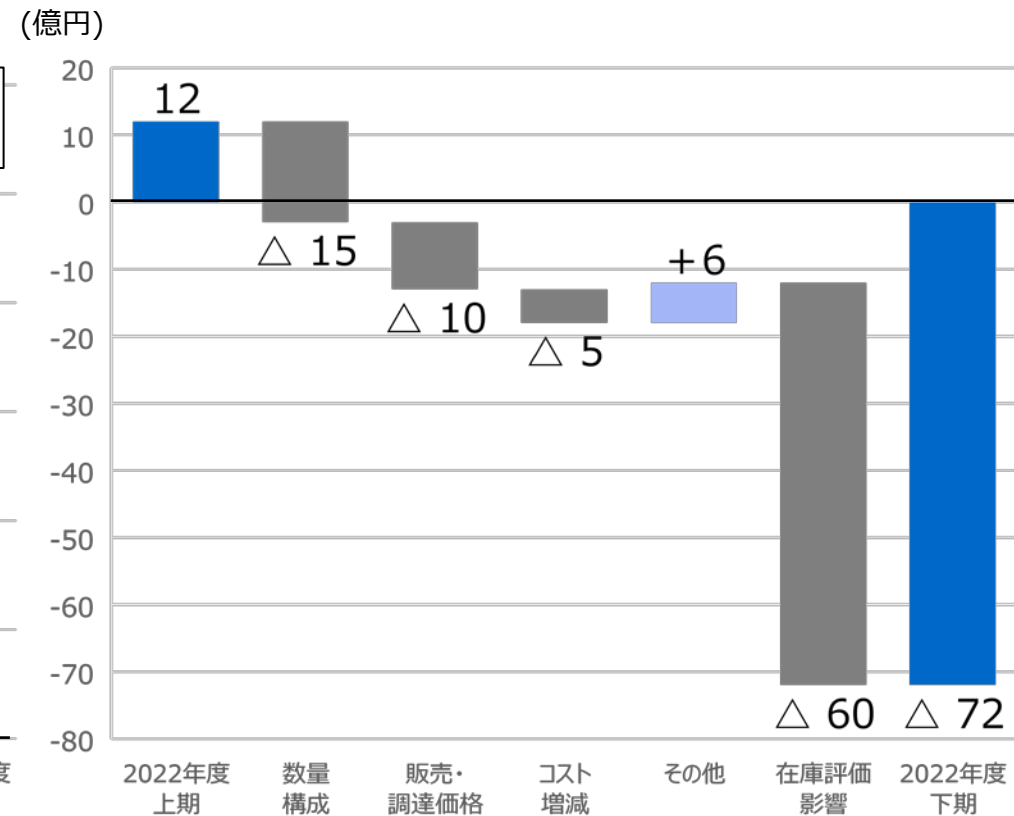
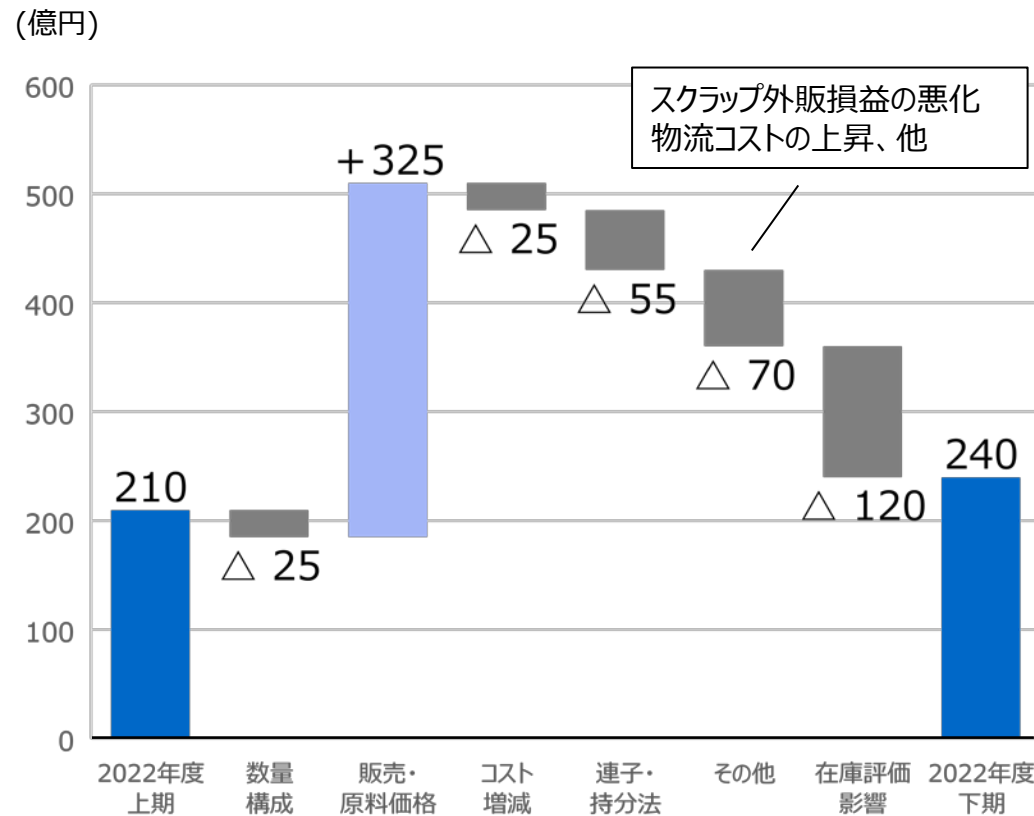
+30

【アルミ板 経常損益】

(単位：億円)

	2022年度見通し		
	上期	下期	通期
アルミ板	12	△72	△60

△84



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

【素形材 経常損益】

(単位：億円)

	2022年度見通し		
	上期	下期	通期
素形材	14	△9	5

△23

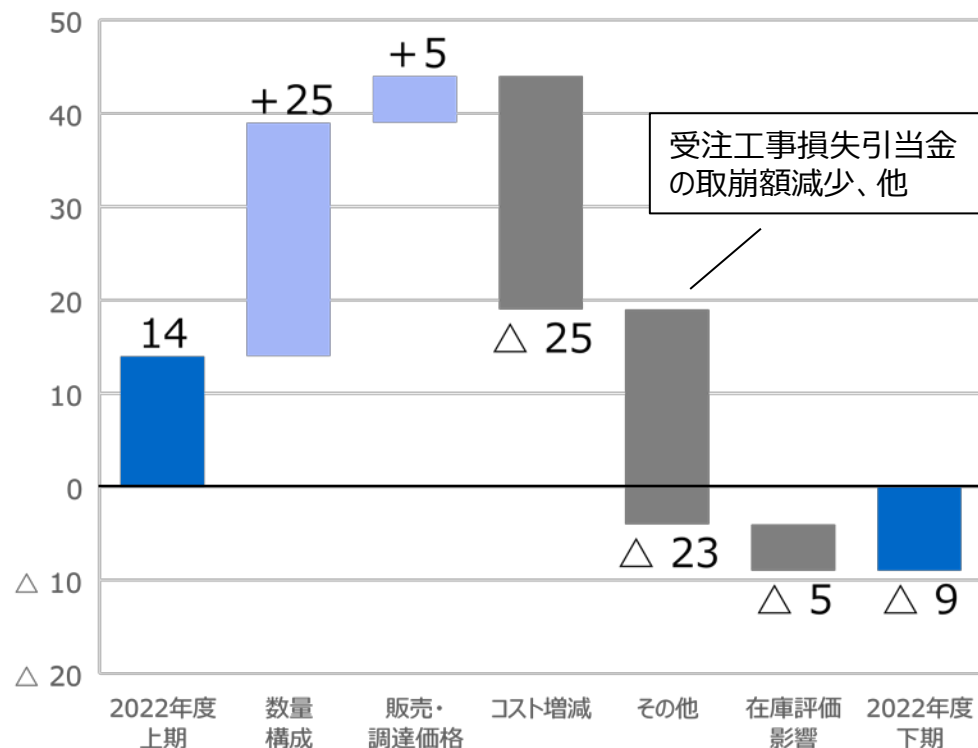
【建設機械 経常損益】

(単位：億円)

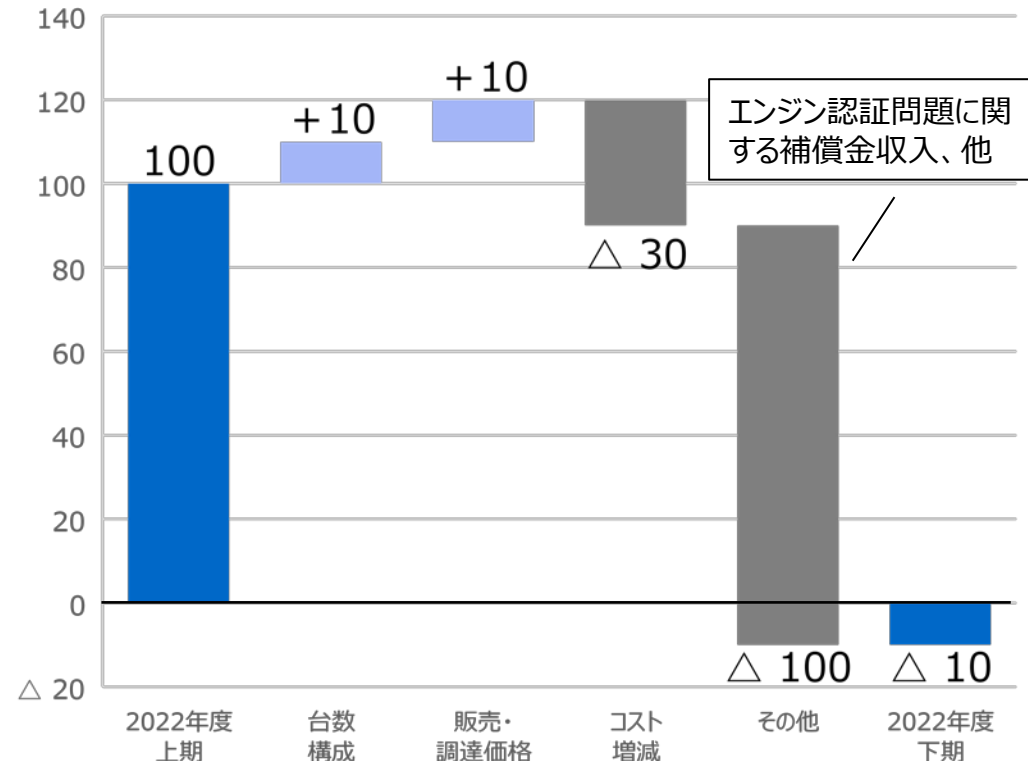
	2022年度見通し		
	上期	下期	通期
建設機械	100	△10	90

△110

(億円)



(億円)



※在庫評価影響には、総平均計算による影響および低価法影響を含む

	2021年度実績				2022年度 見通し (前回) 通期	2022年度見通し (今回)			
	上期	3Q	下期	通期		上期	3Q	下期	通期
粗鋼生産量 ※1 [万t]	335	164	324	659	630程度	315	152	300程度	620程度
鋼材 販売数量 ※2 [万t]	268	132	259	527	510程度	250	125	250程度	500程度
(国内)	(203)	(98)	(197)	(399)	(390程度)	(192)	(98)	(200程度)	(390程度)
(輸出)	(66)	(34)	(62)	(128)	(120程度)	(58)	(27)	(50程度)	(110程度)
鋼材 販売単価 [千円/t]	95.5	108.9	116.1	105.6		134.5	148.2		
鋼材 輸出比率	24.9%	26.1%	23.6%	24.2%		23.4%	21.2%		
アルミ板 販売数量 ※3 [千t]	179	81	164	343	360程度	170	84	170程度	340程度
(国内)	(134)	(57)	(117)	(250)	(245程度)	(119)	(55)	(120程度)	(235程度)
(海外)	(45)	(24)	(47)	(93)	(115程度)	(51)	(29)	(50程度)	(105程度)
アルミ押出 販売数量 ※3 [千t]	19	9	17	36	37程度	17	9	17程度	35程度
(国内)	(16)	(8)	(14)	(30)	(29程度)	(14)	(7)	(13程度)	(27程度)
(海外)	(3)	(1)	(3)	(6)	(8程度)	(4)	(2)	(4程度)	(8程度)
銅板 販売数量 ※2 [千t]	29	15	31	60	60程度	27	14	29程度	56程度
溶接材料 販売数量 ※3 [千t]	133	62	125	258	250程度	126	61	120程度	245程度
(国内)	(53)	(27)	(54)	(108)	(105程度)	(52)	(28)	(55程度)	(105程度)
(海外)	(80)	(35)	(70)	(150)	(145程度)	(74)	(33)	(65程度)	(140程度)
油圧ショベル 販売台数 ※4 [千台]	14.2	7.1	13.9	28.1	26.0程度	11.9	6.3	13.0程度	25.0程度
(国内)	(3.5)	(2.5)	(4.4)	(7.9)	(8.0程度)	(3.4)	(2.3)	(4.5程度)	(8.0程度)
(海外)	(10.7)	(4.6)	(9.5)	(20.2)	(18.0程度)	(8.5)	(4.0)	(8.5程度)	(17.0程度)
クローラークレーン 販売台数 ※3 [台]	143	71	178	321	340程度	145	72	155程度	300程度

※1：単体ベース、高砂製作所の電炉の生産数量を含む

※2：単体ベース

※3：連結ベース

※4：連結ベース、ミニショベルを含む

(単位：億円)

鉄鋼	2021年度実績				2022年度見通し			
	上期	3Q	下期	通期	上期	3Q	下期	通期
鉄鉱石	60	15	△85	△25	50	△45	△70	△20
石炭	35	75	80	115	△30	0	0	△30
キャリーオーバー	95	90	△5	90	20	△45	△70	△50
総平均	220	155	210	430	165	90	35	200
低価法	0	△5	0	0	△15	△15	△5	△20
在庫評価影響	220	150	210	430	150	75	30	180

アルミ板	2021年度実績				2022年度見通し			
	上期	3Q	下期	通期	上期	3Q	下期	通期
総平均	0	25	20	20	55	0	0	55
低価法	0	0	0	0	0	0	△5	△5
在庫評価影響	0	25	20	20	55	0	△5	50

素形材	2021年度実績				2022年度見通し			
	上期	3Q	下期	通期	上期	3Q	下期	通期
総平均	30	25	30	60	25	5	10	35
低価法	0	0	0	0	△5	0	5	0
在庫評価影響	30	25	30	60	20	5	15	35

(単位：億円)

		2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 見通し (前回)	2022年度 見通し (今回)
	営業キャッシュフロー	723	214	2,100	1,816	800	850
	投資キャッシュフロー	△109	△1,334	△819	△1,250	△800	△750
	プロジェクトファイナンスを除く フリーキャッシュフロー	614	△1,120	1,281	566	0	100
プロジェクトファイナンスを含む フリーキャッシュフロー		385	△1,919	529	72	150	250
プロジェクトファイナンスを除く 現預金残高		1,926	1,349	3,018	2,432	1,250	1,300

		2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 見通し (前回)	2022年度 見通し (今回)
設備投資：計上額		1,334	2,398	1,850	1,081	1,150	1,150
設備投資：支払額		1,324	2,453	1,732	1,564	1,000	1,000
減価償却費		1,025	1,053	1,008	1,051	1,150	1,150

	2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 見通し (前回)	2022年度 見通し (今回)
1株当たり当期純損益	99.20円	△187.55円	64.05円	160.23円	113.98円	157.04円
有利子負債	7,603億円	9,066億円	9,878億円	9,084億円	8,400億円	8,350億円
プロジェクトファイナンスを除く 有利子負債	7,242億円	7,844億円	7,857億円	6,551億円	5,700億円	5,650億円
D/Eレシオ ※1	※2 0.98倍	※3 1.19倍	※4 1.11倍	※5 0.80倍	0.65倍程度	0.65倍程度
ROS ※6	1.8%	△ 0.4%	0.9%	4.5%	2.8%	3.7%
ROA ※7	1.5%	△ 0.3%	0.6%	3.5%	2.6%	3.4%
ROE ※8	4.8%	△ 9.7%	3.4%	7.9%	5.3%	7.2%
ROIC ※9	2.8%	0.9%	1.1%	4.7%	3.2%	3.8%

※1：D/Eレシオ＝有利子負債（IPPプロジェクトファイナンス含まない）／自己資本

※2：前倒し調達（921億円）含む。前倒し調達除く2018年度D/Eレシオ：0.85倍

※3：前倒し調達（621億円）含む。前倒し調達除く2019年度D/Eレシオ：1.10倍

※4：前倒し調達（1,862億円）含む。前倒し調達除く2020年度D/Eレシオ：0.84倍

※5：前倒し調達（1,011億円）含む。前倒し調達除く2021年度D/Eレシオ：0.68倍

※6：売上高経常利益率

※7：経常損益/総資産

※8：親会社株主に帰属する当期純損益/自己資本

※9：税引後事業利益/投下資本

【為替レート】

	2021年度実績				
	上期	3Q	3Q累計	4Q	通期
	USドル (円/\$)	109.8	113.7	111.1	116.2
中国元 (円/元)	17.0	17.8	17.3	18.3	17.5
ユーロ (円/€)	130.9	130.1	130.6	130.4	130.6

	2022年度 (今回)					2022年度 (前回) 通期
	上期	3Q	3Q累計	4Q	通期	
	USドル (円/\$)	135.3	139.9	136.9	130.0	
中国元 (円/元)	19.9	19.6	19.8	20.0	19.9	20.0
ユーロ (円/€)	139.1	144.2	140.8	140.0	140.6	139.6

【為替の感応度分析】

USドル1円 円安に伴う今後の業績影響 (2022年度4Q)

鉄鋼 : ±0億円程度 (ドルバランスの影響△2億円、在庫評価影響・販売価格転嫁等 + a億円)

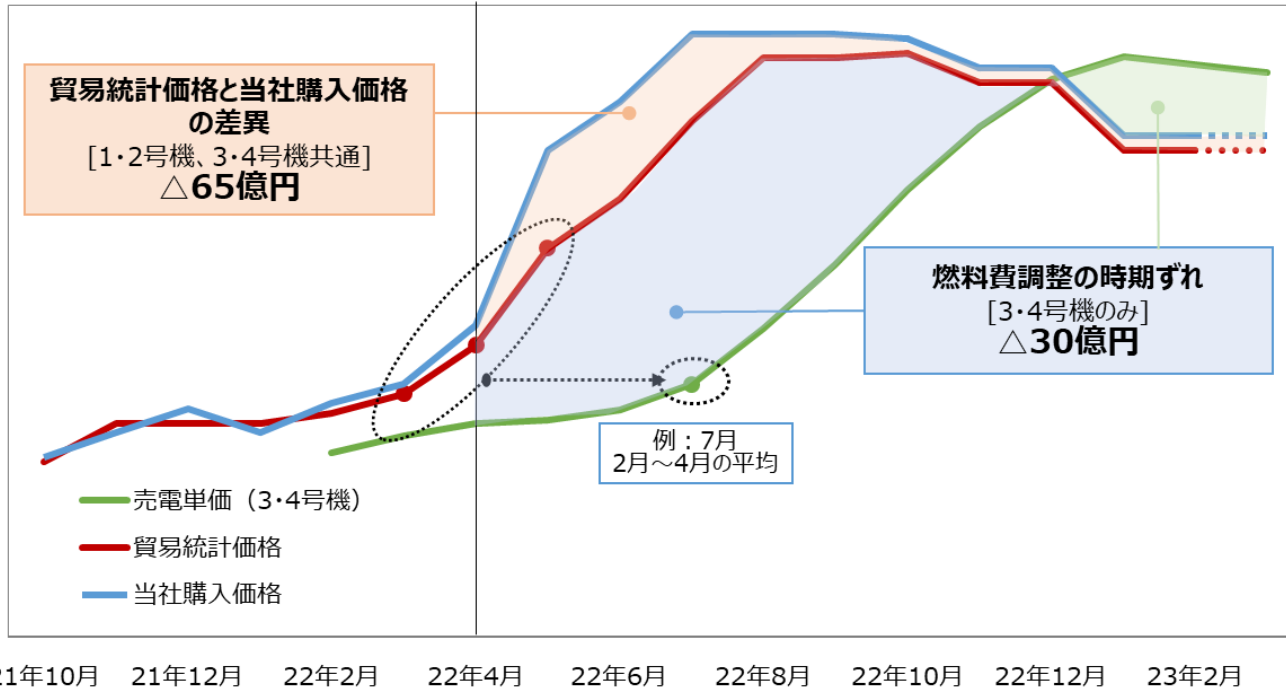
建設機械 : +1億円程度

ユーロ1円 円安に伴う今後の業績影響 (2022年度4Q)

建設機械 : +1億円程度

- 当社の石炭火力発電子会社（以下、当社）が受領する燃料費相当の電力量料金は、**契約時の設定燃料費に、石炭の輸入貿易統計価格（全国平均値）の契約時からの変動代を調整して計算される。**
- 直近の輸入貿易統計においては、一部の輸出国、あるいは特定の輸入港での安値が判明しており、これらが**全国平均の貿易統計価格を押し下げている**関係で、**当社の売電単価が低く抑えられ、損失が発生している。**
- 背景は、電力他社における**一部銘柄の固定価格契約**（その後の市況高騰に伴い値差が拡大）や**入着のずれ**と推定しており、**一過性と認識している。**【**前回見通し △65億円 → 今回見通し△65億円（前回見通し比±0億円）**】
- また、**神戸発電所3・4号機**については、**3～5ヶ月前の貿易統計値を参照**するため、市況高騰時には**燃料費調整の時期ずれによる損失が発生する。**【**前回見通し△75億円 → 今回見通し△30億円（前回見通し比+45億円）**】

「石炭貿易統計価格と当社購入価格の推移（イメージ）」



貿易統計価格と当社購入価格の差異理由（推定）

- 電力他社における市況上昇以前に締結された固定価格契約の影響
 - 電力他社における前年度価格契約分の入着のずれ込みの影響
- ➡ **一般炭市況の高騰が継続する中、業績への影響が顕在化**

◆ **FTSE4Good Index Series**
(2021年6月～)



FTSE4Good

◆ **FTSE Blossom Japan Sector Relative Index**
(2022年4月～)



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

◆ **FTSE Blossom Japan Index**
(2021年6月～)



FTSE Blossom
Japan

◆ **MSCI JAPAN ESG SELECT LEADERS INDEX** ※
(2022年7月～)

2022 CONSTITUENT MSCI JAPAN
ESG SELECT LEADERS INDEX

◆ **MSCI JAPAN EMPOWERING WOMEN INDEX (WIN)** ※
(2023年1月～)

2022 CONSTITUENT MSCI JAPAN
EMPOWERING WOMEN INDEX (WIN)

◆ **CDP**
(2020年12月～)



「気候変動」で「A-」の評価を
3年連続で獲得

KOBELCOグループの“多様な人材の活躍推進”等の取組みが
評価され、今回の初採用に繋がりました。（詳細は当社HP↓）
https://www.kobelco.co.jp/releases/1211405_15541.html

※THE INCLUSION OF KOBE STEEL, LTD. IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF KOBE STEEL, LTD. BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.

KOBELCOが 実現したい未来	「KOBELCOの使命・存在意義」の実行を通じて実現したい社会・未来
	安全・安心で豊かな暮らしの中で、 今と未来の人々が夢や希望を叶えられる世界。
KOBELCOの 使命・存在意義	KOBELCOグループの社会的存在意義であり、果たすべき使命
	個性と技術を活かし合い、 社会課題の解決に挑みつづける。
KOBELCOの 3つの約束	KOBELCOグループの社会に対する約束事であり、グループで共有する価値観
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 信頼される技術、製品、サービスを提供します 2. 社員一人ひとりを活かし、グループの和を尊びます 3. たゆまぬ変革により、新たな価値を創造します
KOBELCOの 6つの誓い	「KOBELCOの3つの約束」を果たすため、品質憲章とともに全社員が実践する行動規範
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高い倫理観とプロ意識の徹底 2. 優れた製品・サービスの提供による社会への貢献 3. 働きやすい職場環境の実現 4. 地域社会との共生 5. 環境への貢献 6. ステークホルダーの尊重

品質憲章

将来見通しに関する注意事項

- ◆ 本日のプレゼンテーションの中には、弊社の予想、確信、期待、意向および戦略など、将来の予測に関する内容が含まれています。これらは、弊社が現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化による変動可能性など様々な要因によって、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なってしまふ可能性があります。弊社は、将来予測に関するいかなる内容についても、改訂する義務を負うものではありません。

- ◆ 上記の不確実性および変動の要因としては、以下に挙げる内容を含んでいます。また、要因はこれらに限定されるわけではありません。
 - 主要市場における経済情勢および需要・市況の変動
 - 主要市場における政治情勢や貿易規制等各種規制
 - 為替相場の変動
 - 原材料のアベイラビリティや市況
 - 競争企業の製品・サービス、価格政策、アライアンス、M&Aなどの事業展開
 - 弊社の提携関係に関する提携パートナーの戦略変化